

一般質問 議:議員/理:理事者

- ふるさと納税について
- AED（自動体外式除細動器）について

その他の質問

・観光客の受け入れについて



吉田将克 議員



議 勝山市のふるさと納税における令和6年の寄附額は、1億6,256万9,500円であり、保育料無償化や学校給食に地元のお米が使用される等、市のまちづくりに活用された。

勝山市における令和6年のふるさと納税の他市町村への支出額（流出額）はいくらか。

ふるさと納税事業を今年度から一般社団法人KICS（キックス）に業務委託しているが、目標額の達成に向けて双方どのように取り組むのか。

また他市町のふるさと納税お礼状で、当該自治体のPR等を掲載している事例を紹介したが、今後はふるさと納税を通じてどのように勝山市をPRしていくのか。

理 令和6年の市民の他市町への寄附金額は約6,700万円であった。本年度目標額は2億円であり、業務委託した市内事業者KICSと連携し、返礼品開拓やPRを通じて地域経済の循環を促す。今後はポータルサイトやSNSを活用し、ふるさと納税をきっかけに勝山市を知っていただき、寄附者がリピーターとなるような工夫を重ね、訪問や移住へとつながるよう努力する。

議 AEDは心肺機能が停止されたときに使用されるもので、心肺機能停止に陥った後、除細動が1分遅くなるごとに救命率は約10%低下するといわれている。各地区のセンターや会館にAEDを設置してはどうか。また設置する場合、地区公民館施設整備費補助金は利用できるか。

理 AED設置はいざというとき有効だが、心肺蘇生を行わずに、自宅から往復2分以上かけて取りに行くのは効果的ではないとされている。設置費用は、自主防災組織備品購入事業やにこにこ地域づくり事業を活用されたい。

一般質問 議:議員/理:理事者

- 救急現場でのマイナ保険証の活用について
- 「中小企業成長加速化補助金」について

その他の質問

・住民の生活を守る幅広い支援について



新風会・公明

安岡孝一 議員



議 「通常の救急搬送では、苦しんでいる患者から口頭でさまざまな情報を聴かなければならないが、患者からの聴取は困難」といわれている。この際、マイナ保険証を活用することでその負担が軽減されるといわれている。患者の医療情報を「マイナ保険証」により口頭で聞き出す負担を軽減し、正確な情報による適切な応急処置やスムーズな搬送、迅速な治療に向けて、救急現場での「マイナ保険証」の活用を進めて行くべきと思うが、市の所見を伺う。

理 総務省消防庁にて「マイナ救急」の実証事業が全国的に進められている。当市は10月中に開始し約2ヶ月間データ収集すると聞いている。正確な情報把握により円滑な救急活動につながると期待しており、実証事業後の運用については結果を踏まえて検討したい。

議 中小企業庁は、売上高100億円をめざす中小企業の工場建設や技術革新に向けた設備投資などを支援する「中小企業成長加速化補助金」について、中小企業の稼ぐ力を強化し、賃上げの原資を確保することを目的に新設した。

市においては、企業誘致が厳しい状況の中、申請要件に該当する既存の中小企業に、この「中小企業成長加速化補助金」を活用して「稼ぐ力」を強化し、賃上げの原資を確保して成長を目指す企業を後押ししてはと思うが、市の所見を伺う。

理 市では令和7年度からサポートアドバイザー派遣事業を実施し、関係機関と協力して市内事業所を訪問、伴走型で支援している。その際、本補助金をはじめ各補助制度の情報提供と活用を促進している。中小企業の成長・発展や賃上げは雇用確保と人口減少抑制の重要な要素であり、引き続き積極的に支援する。